



因の可能性は低いが中性化の程度、塩化物イオン量、残存膨張量、自然電位による鉄筋腐食の状況、構造物のコンクリート強度なども把握することが望ましい。

変状の原因を特定するために、必要な調査項目として、  
 写真Aは〇〇な状況であることから  
 鉄筋の腐食状況を自然電位法  
 (or 残存膨張量の確認をコアの促進膨張試験)  
 (or 中性化深さの確認をドリル法やX線回析装置)  
 B箇所は〇〇な状況であることから  
 鉄筋の腐食状況を自然電位法  
 (or 残存膨張量の確認をコアの促進膨張試験)  
 (or 中性化深さの確認をドリル法やX線回析装置)  
 を行い、劣化の程度や今後の進展性を予測する(状況を把握する)  
 ※このパターンは最低150字くらいの文量

問3

今後〇〇年間この橋梁を供用するための対策として、  
 変状A箇所には〇〇〇のため、×××を行う。  
 現状で△△△になっている(達している箇所)は×××  
 により鉄筋の腐食を抑制する対策を行う。◇◇◇の可能性  
 がある箇所は〇〇を抑制できる(効果のある)×××  
 を行う。  
 すでに〇〇〇の状況であることや×××の状態を考  
 えると、今後の点検を強化し、必要に応じて補修を  
 検討することが望ましい。

最低ライン

パターン2

なお、維持管理計画では定期的な点検を行い、補修記録を残すことが重要である。

⇒ 最後は点検強化と補修検討、補修記録残すことを書く

350字

